

乳幼児の 子育てを支える



～切れ目ない子育て支援の
体制づくり～

現状・問題点

- マタニティ期は行政からの支援は充実しているが、妊婦同志の交流が生まれるような場は少ない（支援センターなどの子育て支援施設は子連れでないと行きにくい）
- 子育て支援情報が必要な人に届いていない。情報の一元化がされていない
- 保育園などの入園手続きに関する情報を知らない人が多い（希望する保育園に入れない、希望の入園時期に空きがない等）
- 社会環境の変化による多世代交流の減少、子育て知識の継承の困難化
- 発達障害を持つ親子へのサポート体制や、社会の理解が乏しい



達成を目指す姿・状況

1、子育てに関わる人を増やし、
子育て支援に対する
意識の醸成を進める

2、妊娠中・子育て中の親子が
子育て支援情報を知り、
必要な支援を受けながら
安心して子育てができる



1、子育てに関わる人を増やし、 子育て支援に対する意識の醸成を進める

『子育てお助けボランティア』の活用

- 子育て支援に関するボランティアを幅広く募り、保育園や子育て支援関係の施設、イベントなどでの活動を行う。
(ボランティアコーディネート機関の立ち上げ、
子育てボランティアコーディネーターの養成)
- 企業や学校などに、所有バスを保育園児の送迎サービスなどに利用できるように協力を呼びかける。





子育てお助けボランティア組織

ボランティア活動をするために必要な研修を
活動希望者が受講しやすい日程で開催。
(夜間、土日なども検討)

「研修受講回数」＋「ボランティア活動
回数」で段階を作ってボランティアに参
加。
星の数で活動内容が広がる！
(活動の楽しさを広げるための☆制度)

子育てボランティア
コーディネーターへ！

1ツ星！



2ツ星！



3ツ星！



ボランティア
コーディネーター
機関(子育てに
関係する
団体)

活動歴は活動カードで管理(ボランティアの内容や日時を記録)
報酬は活動に応じて、お茶などの物品や交通費など様々

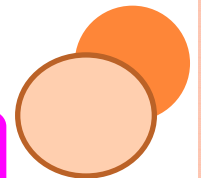
「有償ボランティア」
という認識の一般化
を！

組織の中でボランティア
を育成、活動を正しく評
価(良い所を高く!)し、
温かい目で見守れる存在

- ・支援が切れ目なく続く仕組み作り
(組織内での活動のつながりを)
- ・責任感を持って活動出来る人の育成
(広い視点で活動できる人の育成)

ボランティア活動希望者の把握、ボランティア活動の受け皿となる場所や内容、時間帯の整理。
ボランティア研修の実施、ボランティアの登録、活動のコーディネートなど...

関係団体等でのボランティア活動の受け皿作り(幼稚園、保育園、子育て支援施設などでのサポート
活動)、企業を含めたPRも検討。



2、妊娠中・子育て中の親子が子育て支援情報を知り、必要な支援を受けながら安心して子育てができる


子育て世代交流ネットワークの構築

- 久留米市で開催されているイベントなど「マタニティフェア」を同時開催し、出産予定日が同じ時期のプレママ同士での交流やグループトーク、先輩プレママや保健師等による相談、幼稚園や保育園の情報コーナー、発達障害などに関する相談ブース、子育てグッズお試しコーナーなどを設定する。
- プレママが地域ごとに集まって交流できる拠点作り
- 父子手帳（父親向け子育て支援冊子）の配布





子育て世代交流ネットワークの構築




プレママパパを
子育て仲間とつなげ
ていく機会にしよう

マタニティフェア実施 (久留米市で開催されているイベントで同時開催)

プレママパパ同士でのグループトーク、先輩ママパパや保健師等による相談、幼稚園保育園情報コーナー、発達障害等に関する相談ブース、子育てグッズお試しコーナーなど...
(ボランティア団体主催で関係団体や企業と協力して開催)
長く続くような仕組みで、親子で楽しめるイベントを!



父子手帳(父親向け子育て支援冊子)配布

父親の子育ての出番が増えるような啓発、母子手帳と一緒に配布し、子育てへの意識を高める夫婦間での子育て情報の共有化の推進




パパ寄りの子育て視点での編集、パパの継続した育児参加のきっかけとなるように!

- ★マタニティカフェ、プレママ交流会開催用マニュアルの検討
(見て分かりやすい形で、交流会ルールの図式化)
- ★主任児童委員の充実
(校区配置人数の検討)




子育てお助け ボランティアの活用

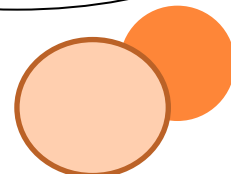


プレママが地域ごとに集まって交流できる 拠点作り

保健所プレママ向け事業終了後にプレママパパ同士の交流が深まるような場の提供
(マタニティカフェの開催)
地域、ボランティア、行政の協働で校区コミュニティセンターや公共施設などでの交流会を開催



「話せて良かった」
「友だちが出来た」
「気持ちに余裕が持てた」
フリートークやアドバイスでホッと一息つける場に



子どもの成長を地域で支える仕組みづくり



○Member

速水 麻友子

佐藤 佐和香

田中 崇

権藤 敏博

尾花 清美

河野 昌枝



「放課後の居場所づくり」



くるキッズ



2014.10.11

現状と問題点

核家族

共働き

孤立化

現状と問題点

遊び場所がない！？

居場所がない！？



放課後の居場所



~~学校~~

~~公園~~

~~公民館~~

学校のグラウンドや体育館は？

- ・少年団などクラブ活動
- ・保護者会 (PTA) 活動

地域、個人の積極的利用あり

地域コミュニティセンターは？

- ・サークル活動、習い事
- ・地域の会議や集会

その他、自由な出入りはできない

近隣の公園や空き地は？

- 不審者の出没
- 道路に面した公園

保護者の立場で考えても困難

達成を目指す姿・状況

異学年で

ふれあう

集団で

楽しむ

提案する取り組み

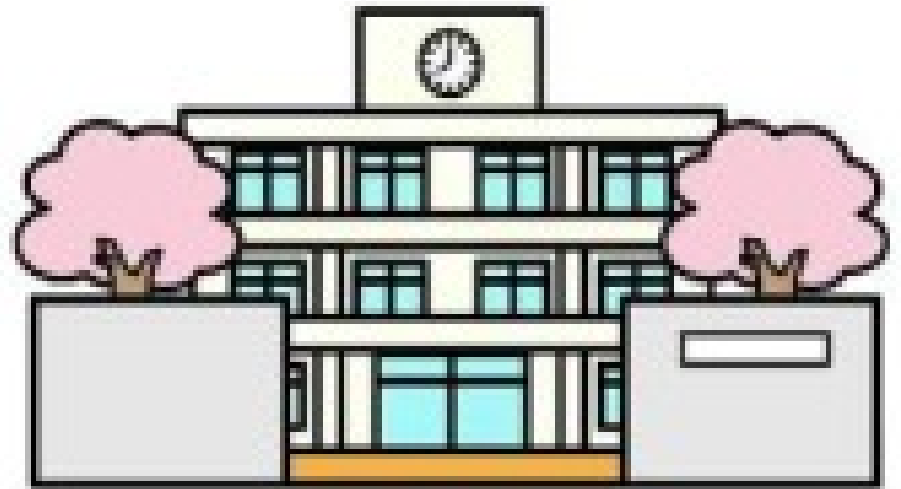


学校内での

放課後活動！

学校内とは、どこ？

- 余裕教室
- 体育館
- グラウンド



なぜ学校内なのか？

- 学校からの移動不要
 - ⇒ 送迎不要
 - ⇒ 運営側の手間が省ける

見守る人は？

活動支援者



保護者

団塊世代

学生

行政の役割

- コーディネーターの養成
- 「活動の見守り隊員」を募集
- 学校長との交渉（施設開放）

関係団体の役割

- 活動の専門家として助言
- 安全管理や運営方法の助言

市民の役割

- ボランティアとして参加
- 話し合いに参加する

まとめると・・・

- 平日の放課後
- 学校内（プレイルームなど）を活用
- 地域の支援者を募る

安全で安心な居場所

子ども達の笑顔のため！





くらぼ
くらぼくらぼくらぼ

ご清聴

ありがとうございました

テーマ

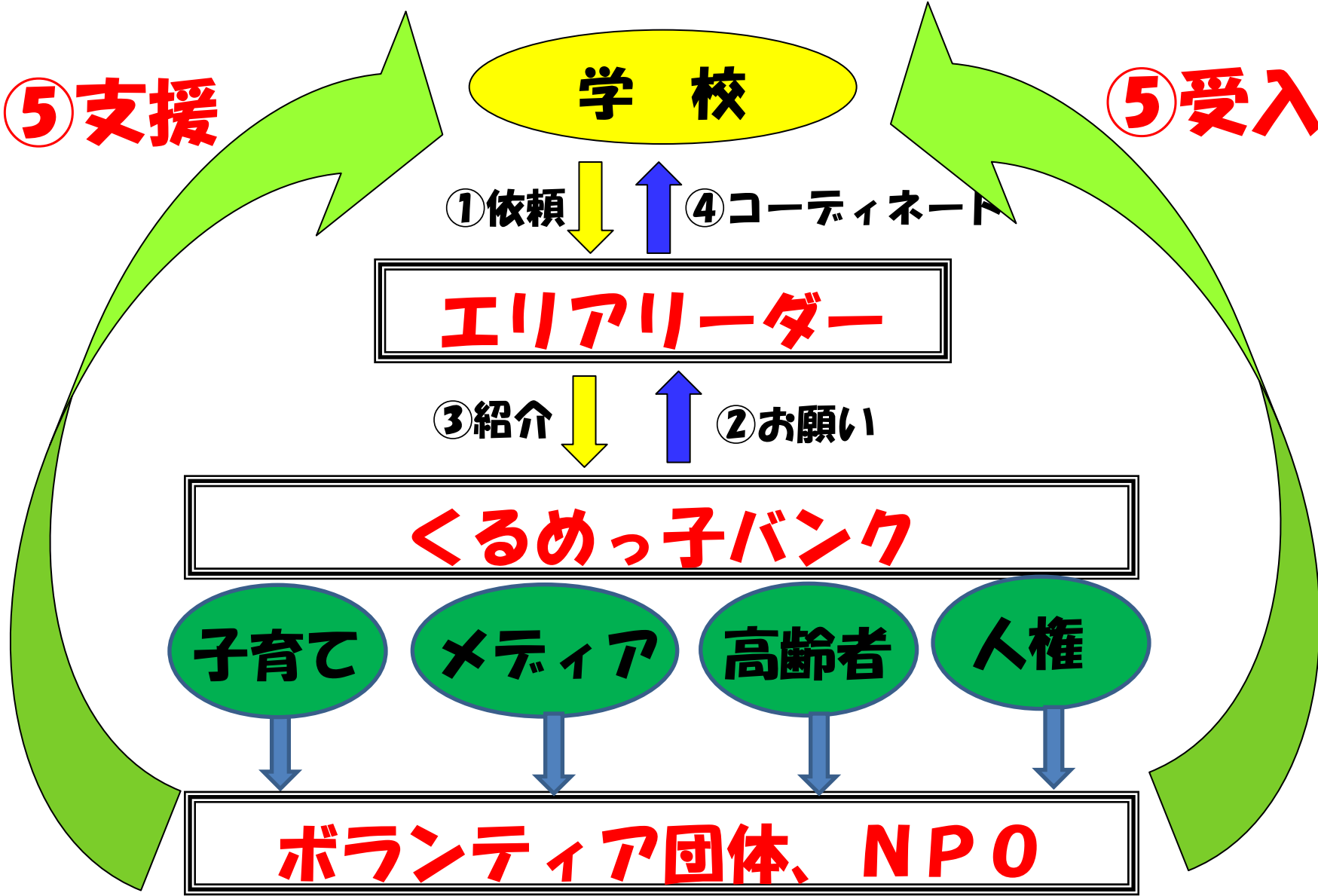
子育てに関わる人を増やす

くるめっ子サポーター事業

チームChild

平成26年10月11日

「くるめっ子サポーター事業」のイメージ



*事前打合せ；6月6日（金）17：00 大橋小学校；永松教務主任

→ 最終打ち合わせ；6月26日（木）16：30 大橋小学校済み（永松先生、江上、空閑、岩井、池上）

- ・日時；7月9日（水）14：20～15：40《集合；13：00》
- ・会場；大橋小学校；体育館
- ・対象；4年生；15名、5年生；20名、6年生；10名の生徒（45名）＋教職員；13名＋保護者；40名＋地域の方々＝（45名＋13名＋40名＋30名＝128名）予定
- ・担当；久留米市キャラバン・メイト連絡会の皆さん ほか

進行表； 時間微調整が、まだ必要です。（6/26調整済）

司会進行；永松 先生

予定	時間(分)	具体的な内容	備考
集合； 13：50 →	13：00 へ	集合場所；大橋小学校／体育館	外部関係者
14：20～14：25	5	・開講の挨拶	雄野 校長先生
14：25～14：30	5	・自己紹介・オリエンテーション	全員、江上
14：30～14：35	5	・資料配布；テキスト《小学生用》《大人用》	全員
14：35～14：50	15	・寸劇「認知症のおじいちゃん」子供5年生	寸劇チーム
14：50～15：10	20	・認知症について	CM；（中村）
15：10～15：15	5	休憩<トイレのみ>	
15：15～15：25	10	・DVD上映（認知症の方への対応3例）	学校
15：25～15：35	10→15分へ？	・まとめ；質問の投げ掛け方を工夫する	永松 学級担任
15：35～15：40	5	《大人；アンケート依頼の事》 ・生徒は、感想の記入（教室で後ほどの案内）	全員
15：40		・閉講の挨拶	江頭教頭先生

*終了後、<オレンジリング配布>する

- 役割分担； 受付；人数が多いので、東包括スタッフにも依頼。（受付名簿作成；永松先生）
- ・資料；（作成及びセット）（小学生用テキスト・アンケート・進行表／コピー；三原）
- ・講師； CM（キャラバン・メイト） ・参加募集は、保護者、地域の方々へおこなう
- ・DVDセット；大橋小学校 ・模造紙による「式次第表」作成（永松先生）
- ・資料配布；<テキスト（先生分は小学生用）、オレンジリング（S&M）など>
- ・寸劇；寸劇チーム（山田リーダー・糸永ほか） ・アンケート回収箱
- ・ビデオ機器／撮影なし
- ・報道関係；（西日本など案内？）特に、無し。・PTA；久留米市立大橋小学校PTA（石原会長）
- ・地域の方々；大橋まちづくり委員会（秋永会長） ・大橋校区社会福祉協議会（井上 会長）
- ・運営；久留米市社会福祉協議会（三原）／キャラバン・メイト連絡会（江上）
- ・その他；・マイク3本あり（プラス東包括から2本借りる） ・生徒は床すわり・駐車場；運動場

*なお、当日 1～3年生／14：20までと、15：50～16：30「4～6年生保護者学級懇談会」が行われる予定

・今後の事；2014年以降継続検討（4～6年生及び保護者、地域の方対象）

エリアリーダー

- ① 適任者
主任児童員
民生委員
コミュニティセンター事務職員等
- ② 選定基準
大学との公開講座やボランティアを受講した希望者
- ③ 待遇
市の非常勤嘱託職員として雇用契約を結ぶ

大学等の公開講座

幼児教育学科による 「信愛つどいの広場」子育て支援講座

◆第1回 6/7(土) 10:00~11:00 講師：三原信彦

「はじめてのアート(のびのび描こう!)」

受講料：無料 定員：15名 対象年齢：1歳半以上 親子での参加可○
持参するもの：エプロン(大人・子ども)、汚れてもよい服装(大人・子ども)



◆第2回 7/5(土) 10:30~11:30 講師：渡邊由恵

「身近な素材で手作りおもちゃのお弁当をつくろう!」

受講料：無料 定員：15名 対象年齢：2歳以上 親子での参加可○

◆第3回 8/2(土) 10:00~11:00 講師：萩尾ミドリ

「親子で楽しもう!“えほんの読み聞かせ・ふれあい遊び”」

受講料：無料 定員：20名 対象：未就園児 親子での参加可○

◆第4回 8/30(土) 10:00~11:00 講師：萩尾ミドリ

「集団生活の前に①~幼稚園・保育園ってどんなところ～」

受講料：無料 定員：20名 親子での参加不可×



◆第5回 9/13(土) 10:00~11:00 講師：久留米市役所

子ども未来部 子ども育成課

「集団生活の前に②~幼稚園・保育園ってどんなところ～」

受講料：無料 定員：20名 親子での参加不可×

◆第6回 10/25(土) 10:00~11:00 講師：三原信彦

「アルバム作り」

受講料：無料 定員：15名 親子での参加不可×

持参するもの：ご家族の写真など(Lサイズが標準)



◆第7・8回 11/8(土)、11/9(日) 両日 10:00~15:00

「信愛つどいの広場フェスティバル(信愛祭同時開催)」

受講料：無料 定員：制限なし 申込不要 親子での参加可○

◆第9回 11/29(土) 10:00~11:00 講師：池田可奈子

「ことばを育む親子の関わり」

受講料：無料 定員：20名 親子での参加不可×



◆第10回 12/13(土) 10:30~11:30 講師：渡邊由恵

「身近な素材で手作りおもちゃのスイーツをつくろう!」

受講料：無料 定員：15名 対象年齢：2歳以上 親子での参加可○

◆第11回 2/21(土) 10:00~12:00 講師：眞谷智美・高松幸子

「親子クッキング(幼児のおやつ)」 ※第12回と同じ内容です。お一人様一回限ります。

受講料：500円 定員：10組(親1名と子1名の10組) 子どもの年齢：3~5歳
持参するもの：エプロン・三角布・手拭きタオル
子ども用(エプロン・三角布・手拭きタオル・上靴)

アレルギー児への対応はしていません。

◆第12回 2/28(土) 10:00~12:00 講師：眞谷智美・高松幸子

「親子クッキング(幼児のおやつ)」 ※第11回と同じ内容です。お一人様一回限ります。

受講料：500円 定員：10組(親1名と子1名の10組) 子どもの年齢：3~5歳
持参するもの：エプロン・三角布・手拭きタオル
子ども用(エプロン・三角布・手拭きタオル・上靴)

アレルギー児への対応はしていません。



会場：久留米信愛女学院短期大学(講座当日、会場までの案内掲示あり)

講座開始の15分前に信愛つどいの広場に集合してください。(信愛つどいの広場フェスティバルは除く)

申込締切：各講座の1週間前/託児：各講座先着15名まで(無料)

(但し、信愛つどいの広場フェスティバルは除く)

※託児お申込みの際、お子様のお名前・年齢・性別をお知らせください。

(お子様のお預かりは、原則として6ヶ月以上です。事前にご相談ください。)

ボランティア養成講座

地域子育て支援拠点など 子育てひろばに関わる方のための認定講座 地域子育て支援士二種 養成講座

ひろば全協
初の
認定講座!

地域子育て支援士二種とは?

「地域子育て支援士二種」は、乳幼児とその保護者が集う「地域子育て支援拠点」等に関わる支援者やボランティアなどに求められる基礎的な知識・技術を習得したことをひろば全協が証明する認定資格です。
また、この資格は、地域子育て支援拠点に関わる初任者だけでなく、ボランティアなどの地域の活動者に対する「入門編」としても位置づけています。

受講要件

次の①～④のいずれかにあてはまる方

- ① 地域子育て支援拠点等における活動者
(有給の職員だけでなく継続的なボランティアも含む)
- ② 大学・短大・専門学校等において保育士・社会福祉士・保健師 いずれかの養成課程に在籍する学生。その他、心理学を修める大学の学部・学科に在籍する学生
- ③ 保育士・社会福祉士・保健師のいずれかの資格取得者
- ④ 地域子育て支援拠点等におけるボランティア経験を有する者



認定の流れ

地域子育て支援士二種 養成講座1日受講

認定試験
(講座終了時に実施)

合格

地域子育て支援士二種 資格認定登録



認定証と認定カードを発行

子育て支援コーディネーター養成講座

～利用者支援事業の担い手として～

ご利用ください!

平成26年度から始まる利用者支援事業[※]の従事者には、利用者支援専門職員(仮)という名称が国で検討されており、研修の受講が求められています。そこで、ひろば全協では、地域子育て支援拠点など親子が継続的に利用できる施設で、個別の家庭状況を踏まえた支援のコーディネートをする方を対象とする「子育て支援コーディネーター養成講座」を開発しました。ぜひ、開催をご検討ください。

[※]利用者支援事業:平成27年度から本格実施となる子ども子育て支援新制度における「地域子ども子育て支援事業(13事業)」の一つ。

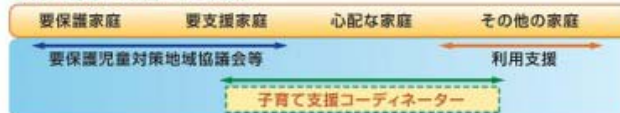
◆開催に関するお見積りも作成いたします。詳細は下記までお問い合わせください。

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会(ひろば全協)
〒222-0037 横浜市港北区大倉山3-19-18 TEL:045-531-2888/045-546-9970
E-mail: info@kosodatehiroba.com

子育て支援コーディネーターの定義(ひろば全協調査研究より)

子育て家庭が有する課題やその力を包括的に把握、予測したうえで、本人の力や地域資源を生かしながら、個別の家庭状況に応じ、支援策を調整、調達する。あわせて、すべての子育て家庭が子どもを授かり、子どもを育てることを開始した時から、社会的に包摂される仕組みを地域の中につくることを指向し、より包括的、予防的にコーディネートする役割を担う。

●子育て支援コーディネーターの対象



子育て支援コーディネーター養成講座

養成講座
の流れ

修了証書発行

フォローアップ講座

[※]翌年以降、フォローアップ講座の案内がきます。

所要時間:約7時間

講座内容

・講義:「子育て支援コーディネーターの役割と期待される力量」
・ワーク:具体的な事例に基づくワーク

受講料:25,000円(税込)/1名

最少催行人員:15名



子育て支援コーディネーターの役割と位置づけ付録集
(子育てひろば全国連絡協議会編集 2012年)

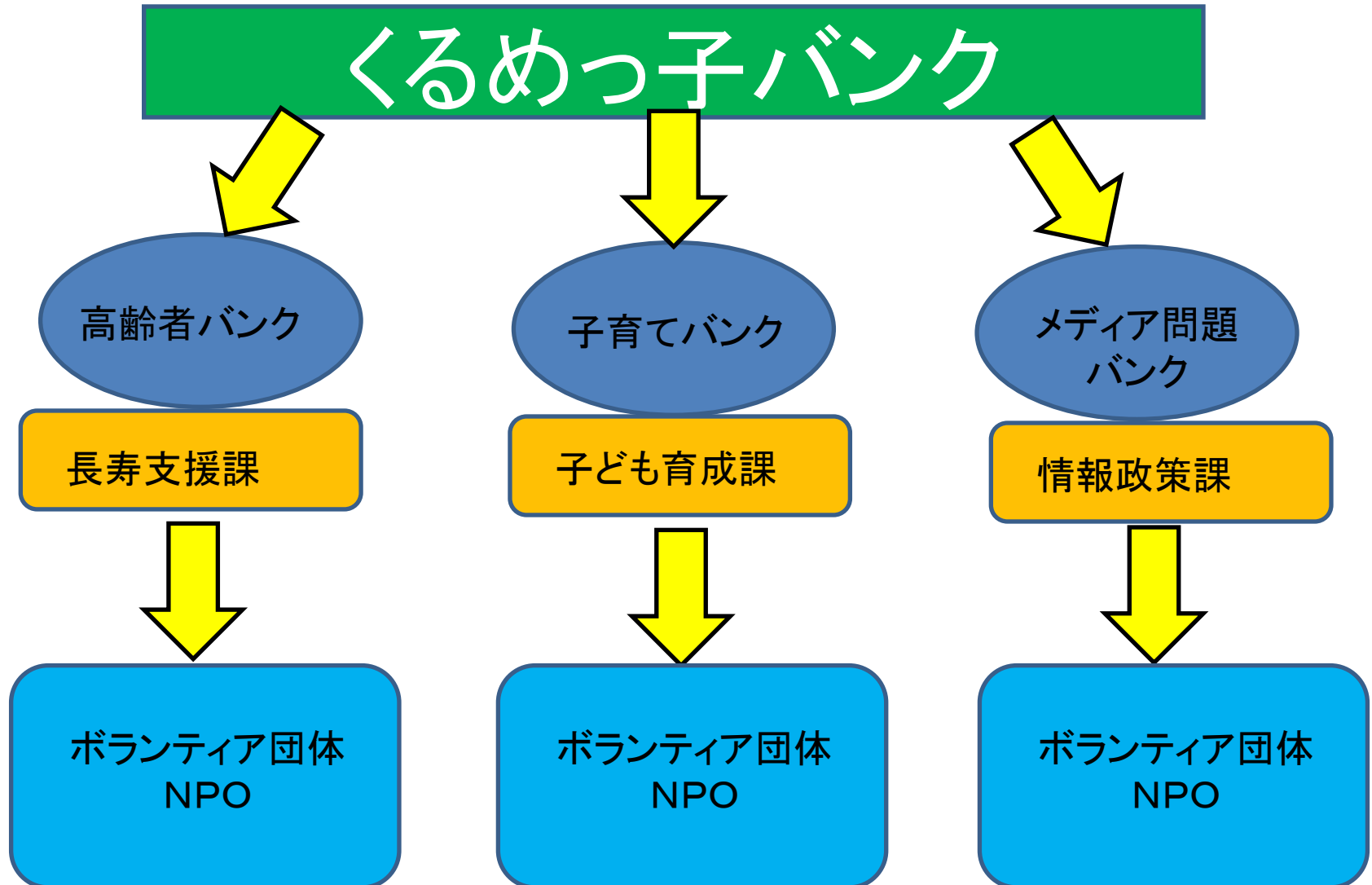


子育て支援コーディネーター
養成講座 修了証書

くるめっ子バンク

- 学校を支援する活動を提供できるボランティア団体やNPOを公募し公開審査の上、各テーマごとの「くるめっ子バンク」に登録する。
- 「くるめっ子バンク」は各テーマごとに担当課を決める。

くるめっ子バンクイメージ

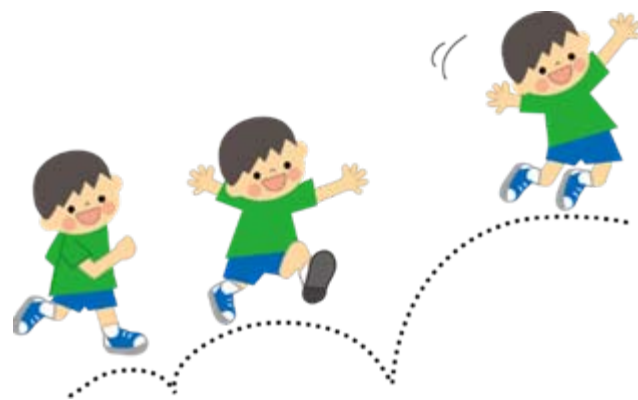


久留米市次期総合政策

協働ワーキング

「子育て支援」

子どもの成長を地域で支える仕組みづくり



【ワーキングメンバー】

岸田 兼一（チームリーダー）

杠 顕一郎、柴田 晃、柴原 美規

川野 寛史、坂井 輝久

現状・問題点

【地域における子育ての課題認識】

- 地域コミュニティ内の関係性が希薄化している。
- 居住地域において、子育て世代の親の活躍の場や交流の機会が少ない。
- 子どもにとって、信頼して相談できる相手（環境）が少ない。
- 子どもとの向き合い方に悩む大人が増えている。
- 子育て支援の情報やサービスが、それを必要とする親に届きにくい。
- 教育現場で、子ども一人ひとりに合わせた細やかなフォローが出来ておらず、学習意欲の低下や疎外感を感じる子どもが増えている。



【地域における子育て環境のあるべき（あって欲しい）姿】

- 地域における人間関係が緊密になる。（知り合いになる）
- 子育て中の親に、支援メニュー等に関する情報が容易に届く。
- 子どもたちが、身近な場所で、悩みや相談を気軽にできる。
- 子育て中の親が、子育てに関する悩みを気軽に相談できる。
- 子どもが多世代の人達と関わりを持ち、多様な価値観を習得する。
- 子どもを介して、親同士や多世代の人達に交流が生まれる。
- 校区コミュニティ施設に人が集まる。
- 地域住民が自治会に積極的に加入する。
- 子どもを持つ若い世代が、積極的に自治会活動に参加する。



提案する取り組み

【地域コミュニティ施設の子育て支援拠点化事業】

【事業の概要】



校区コミュニティ組織の加入非加入を問わず、校区内に点在する子育て支援を行っている各種団体の横断的組織「子育てネットワーク会議」を設立し、『子育て支援』『学習支援』『人材育成』の3つの視点から、地域との協働のもと、子育て支援事業を企画し、実施するモデル校区に対して、行政が財政的な支援を行う。



『子育てネットワーク会議』

地域コミュニティセンター
子育て支援拠点化事業



子ども一人ひとりの
成長に、多世代の
様々な人が関わる



多世代の人が子育てに
関わることで、
多様な価値観や健全な
心を育まれた子どもで
溢れる地域



子どもの成長を地域で支える仕組みづくり

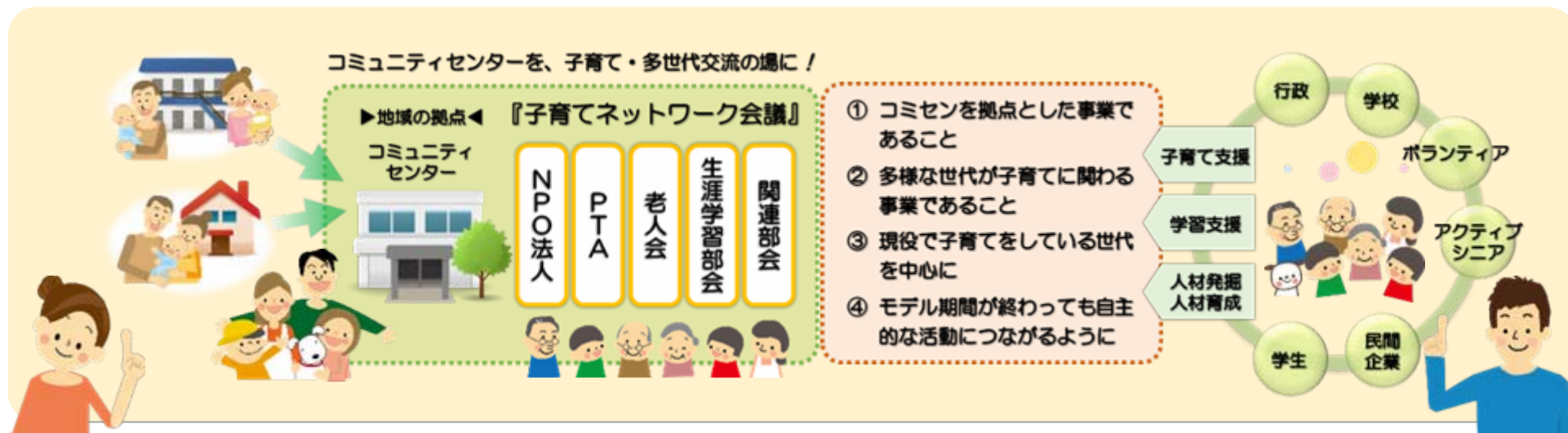
事業実施のねらい

- (1) モデル校区が子育てに関する多様な事業を実施することにより、多世代の大人が地域の子育てに関わり、子どもたちの社会性や地域への愛着感の育成を図ることを、第1のねらいとして実施する。
- (2) 事業の実施にあたり、コミュニティセンターという施設を拠点とすることで、センターを誰もが気軽に立ち寄れる場所に変え、子どもの育成を通じて多世代の人が交流できる環境を作り、地域活動に対して積極的とはいえない若い世代の事業参画を促し、コミュニティ組織の活性化についてもねらいの1つとしたい。



【モデル校区としての応募要件】

- 校区内で、子育てに関わる各種団体が、連携して地域の子育て支援に当たることを目的とした「横断的な組織」が設立されること。
- 組織設立にあたって、現役子育て世代が中心になり組織運営を担っていること。
(関係団体への所属の有無は問わない)



モデル校区が実施する事業例



【子育て支援】

- 子どもを育てる親が集い、悩みを話し合うなどして交流を深める「ママパパカフェ」
- 中学生を対象に、乳幼児とその親と交流する場をつくる「ふれあい交流会」
- インターネットによる支援情報の内容と、使い方を改善する「簡単アクセス」



【人材発掘と育成支援】

- 学生や地域の高齢者が、ボランティアスタッフとして各事業に携わる「子育て応援隊」
- 有識者を呼び、子育てに関する基礎知識や心構え等を学び広める「親学講座」



【学習支援】

- 郷土出身者による、子どもの学習意欲を高める「出前講座」
- 農業体験など、子どもたちが自然の中で主体性や社会性を育むような「自然体験学習事業」
- コミュニティ・スクールの導入検討
 - ・ 校区オリジナル課外授業
 - ・ アクティブシニアの活用（昔あそび）
 - ・ 学生の社会体験を兼ねた授業のサポート



各主体の役割分担

市民

地域の絆を熟成させるために、早期から地域や住民と馴染むことを心がける。

- 実施される事業への積極的な参加、ボランティアスタッフとしての協力
- 事業への参加を通じて、地域との関係を密にしていく
- 地域内での呼びかけ、広報紙による報告



行政

地域住民が各事業参加や支援サービスを利用しやすい環境づくりを心がける。

- 補助制度の策定
- モデル事業期間を通じた課題の洗い出し、成功事例の分析等、事業の洗練化
- 市全域に対する広報活動



関係団体

子育てしやすい地域を実現するために、地域機能の充実化や拠点化を促進する体制づくりや子育て世代の声が反映される仕組みの構築を心がける。

◎ 校区コミュニティ組織



- 組織立ち上げの際の関係団体への呼びかけや、地域住民への周知、運営支援
- コミセンの貸出し
- コミセンを拠点とした事業なので、定例会議への出席などを通して、密な連携を図る



◎ 子育て支援関係団体

- 新組織における若い世代の役員選出
- 構成団体同士の活動趣旨・活動内容の知識を深め、連携して事業を行える体制整備



久留米市次期総合政策

協働ワーキング

「子育て支援」

子どもの成長を地域で支える仕組みづくり



【ワーキングメンバー】

岸田 兼一（チームリーダー）

杠 顕一郎、柴田 晃、柴原 美規

川野 寛史、坂井 輝久